

平成30年度半田市障がい者自立支援協議会

第7回現場職員向け研修ダイジェスト

発行元：半田市 平成30年12月

現場職員向け研修では、福祉事業所などで働く職員に対して、利用者の障がい特性や支援のポイントを学んでいただくための研修を行っています。

第7回研修では、歯科医師として支援を行われている石黒氏から、障がい児への支援のうち、食べることの仕組みと、うまく食べられない子どもへの支援方法についてお話いただきました。

- 講師：石黒 光 氏（日本障害者歯科学会 監事 認定指導医）
- 日時：平成30年12月5日（水）10時00分～12時00分
- 場所：半田市役所 大会議室
- 内容：摂食嚥下のメカニズムと支援方法について
- 参加人数：41名



食べる仕組みのポイント

- ①食べる機能を獲得する準備＝指しゃぶり
幼児期の指しゃぶりは脳機能に作用し、唇や舌の感覚を刺激するだけでなく、免疫力を高める働きがあります。
- ②感覚情報の経験＝五感の発達
物に触れることや、指以外の玩具等を舐めることで、硬さや形状を感じ、目で記憶していきます。また、口唇を動かし、舌や顎などの器官と協調した運動につながります。
- ③身体機能との連動＝吸啜(きゅうてつ)から咀嚼(そしゃく)
首がすわり上半身が安定することで、顎付近の筋肉が発達し、食べるための舌や顎の運動を行うことができるようになります。

共通する食べることの問題

- ×**食べ方の問題**
舌が出る、吸う様な食べ方、つめこむ溜め込む、かまない、食べ物を出し入れ
 - ×**飲み込みの問題**
むせる、つもらせる、口が開いたままこぼす、口に残る
 - ×**食事全体の問題**
偏食、早食い、食べ過ぎ、食欲がない
手づかみ食べ、食具が上手に使えない、遊ぶ
- 食べる仕組みから「どこに問題があるか」を考え
「どう支援するか」を考えることが大切です。

食事介助のポイント

- 食形態の工夫**
ペーストやトロミだけでなく、変形しやすい軟菜をカットするなど、食事を食べやすい状態にします。
- 姿勢の保持**
むせにくいよう姿勢を正します。特に、介助する際には反り返る姿勢になりやすいため注意します。
- 口唇・舌・顎の運動の補助**
頭部を固定することで下顎が安定するため、頭や顎に手を添えるなどの介助が有効です。また、うなづくようにして嚥下を促進させることや、食べ物を舌の上に置き、自分で舌を使って上顎や上歯まで持っていく動きを訓練することが大切です。



今年度の現場職員向け研修は、今回の第7回をもって終了しました。全7回の研修すべてを受講された17名の方には、受講済証を送付します。

お問い合わせ先

半田市障がい者相談支援センター（青木・森）
TEL：0569-21-5585
半田市 地域福祉課（杉浦(郁)・杉浦(友)）
TEL：0569-84-0643